

# 同窓会だより

信州大学医学部保健学科同窓会事務局  
School of Health Sciences, Shinshu University  
第6号 2008年11月



## —目次—

保健学修士課程の完成年度を迎えて	2
同窓会の皆様へ	3
新入教員のご挨拶	4
カーティン工科大学短期留学	5
平成19年度活動報告	7
総会記録	8
平成19年度事業報告	9
平成19年度医学部保健学科同窓会決算書	10
平成20年度事業計画(案)	11
平成20年度医学部保健学科同窓会予算(案)	12
同窓会役員	13
信州大学医学部保健学科同窓会会則	13
信州大学大学院医学系研究科保健学専攻の紹介	15
編集後記	16

2008  
第6号

## 保健学修士課程の完成年度を迎えて

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行

(信州大学医学部保健学科 検査技術科学専攻 病因病態検査学講座 教授)

2008年3月、2度目の保健学科の卒業生を送り出しました。そして4月、保健学科6期生と同時に大学院医学系研究科保健学専攻修士課程2期生を迎えました。

新入生にとって、大学での勉学に際し、どんなことに心がけるべきでしょうか。大学は、単に知識や技術を伝授するところではありません。講義や書物からの知識や学説であっても鵜呑みにするのではなく、それらが構築された思索プロセスを考えてみるのが大切です。何事にも疑問をもち、必ず自分で思考する習慣を身につけましょう。得られた情報を噛み砕き、消化吸収することによって、初めてそれらが知恵となり、その後の知的活動に生きてくるのです。

皆さんには、自ら課題を探求し、その課題に対して広い視野から総合的に判断をして、新しい創造を産み出す確かな能力を育てて欲しい。地球的課題である温暖化、新エネルギー、人口問題などを例にとっても、すべてが学問横断的であり、狭い領域の知識や技能のみでは対応できません。多様な要因が絡んだ自然現象や社会現象の背後にあるものをしっかり見抜き、課題解決の道を見つける力が求められているのです。

さて、2008年度は、本学に大学院医学系研究科保健学専攻が設置されて2年目、いよいよ修士課程の完成年度を迎えました。国立大学の法人化によって運営費交付金が年々削減されるなか、「信州大学医学部保健学科」に入学して良かった！「信州大学大学院医学系研究科保健学専攻」で学んで良かった！と在校生、卒業／修了学生諸氏に感じていただける教育環境

の整備へ向けて、保健学科同総会は努力して行きます。母校との連携のもと、信州大学医学部保健学科と信州大学大学院医学系研究科保健学専攻が、ますます輝きを持って発展して行くように、保健学科同総会は支援して行きます。



2009年3月、ここから巣立って行く看護学および保健学修士生には、1期生としての誇りを持って歩んで行って欲しい。彼らの今後のご活躍を切に願うと同時に、さらに研鑽を積み、母校で研究を進展させながら、後進の指導育成に関わって行ってくれる人材が、彼らの中から輩出することを信じたい。

今、本学は、博士課程の設置へ向けての最終段階にある。来春に博士課程の1期生を迎えるべく、着々と準備してきている。2009年4月には、学部の7期生、修士課程の3期生と同時に、博士課程の1期生と一緒に迎えたい。

## 同窓会の皆様へ

信州大学医学部保健学科同総会名誉会長 **市川 元基**  
(信州大学医学部保健学科長／看護学専攻 小児母性看護学講座 教授)

18歳人口の減少に伴い、大学への受験者数が縮小し、長野県内の大学においても私学では松本大学と佐久大学を除き定員の確保が出来ていない、というニュースが報じられています。幸い信州大学医学部保健学科では受験者数の増減が多少あるものの、定員の確保という点では現在のところ苦労することなく、レベルの高い学生の方々をお迎えし、教育・研究を行うことが出来ており、大変うれしく思っております。

昨年4月に設置された信州大学医学系研究科保健学専攻修士課程に入学された初年度の学生さんたちは、その研究がいよいよ佳境に入り、皆さん来年3月の学位取得へ向けてがんばっていらっしゃいます。これからの信州大学の看護学修士あるいは保健学修士の二本となるような修士を取得されることを願っております。

同窓会のご援助をいただいて毎年行っているカーティン工科大学への大学間学術交流協定に基づく夏期海外単位認定プログラムには今年も多数の学部学生さんや大学院の学生さんたちが参加されています。原油サーチャージの影響やカーティン工科大学のスタッフの交代など、いくつかの問題もありますが、信州大学医学部保健学科・大学院医学系研究科保健学専攻における教育の特長の1つとして来年度以降も継続し、このプログラムをきっかけにして国際的に活躍される同窓生の方々が育つことを期待しております。

やはり同窓会のご援助により行って参りました保健学科公開講演会につきましては、2008年6月28日の本年度の同窓会総会の日東京大学先端科学技術研究センターの星加良司先生をお迎えして、『障害者をめ

ぐる「常識」の嘘』というお話を拝聴することができました。保健学科の学生を含めた多くの同窓会員の方々にご参加いただき、非常に有意義な講演会で



あったと思います。今回の講演会は保健学科看護学専攻成人・老年看護学講座の井口高志先生の企画によるものでした。来年度以降も保健学科として地域社会にアピールできる公開講演会や公開シンポジウムを企画して参りたいと思っております。

信州大学が国立大学法人になり、最初の中期計画の評価を受ける時期になって参りました。その評価項目の中には同窓会との連携に関する項目がいくつもあります。これからも同窓会との連携を深め、同窓会の皆様のお力をお借りして、信州大学医学部保健学科そして医学系研究科保健学専攻をよりよいものに発展させて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 新入教員のご挨拶

## 新任のご挨拶

金井 誠

(医学部保健学科小児・母性看護学講座 教授)

平成20年4月に信州大学産科婦人科学講座から異動し着任いたしました。松本で生まれ、松本深志高校、信州大学で学んだ生粋の松本育ちです。学生時代は野球に明け暮れておりました。当時は女子マネなどという華やかな存在はなく、医学部の同級生も女子学生は1割強、家族は父母と弟で、周囲は圧倒的に男だらけの生活でした。これが産婦人科医となった途端に、患者も看護スタッフも女性のみという別世界での生活になり、最近では産婦人科医も8割が女性で、家庭では妻と3人の娘の中で暮らすという、女だらけの中での生活に変わりましたが、これはこれで楽しいものです。



産科医と助産師は、ご両親にとって人生の喜びの10大ニュースに必ず入る“生命誕生の瞬間”に立ち会うことが日常であり、『産科医になって本当によかった』と私は心から感じていることを、医学生や看護学生にずっと伝えてきました。また従来より「安全で快適なお産」の実現は、産科医と助産師の協力・連携なくしてありえないと考えており、優れた助産師を数多く養成することこそが、妊産婦・助産師・産科医の全ての幸福に直結すると確信しておりました。医師不足が背景とは言え現在ほどメディカルスタッフが社会から注目されている時代はないように思います。今後は保健学科において助産師のみならず、臨床に応用できる知識と技術の修得・自分が修得した知識や技術の伝授・新たな課題を発見しての課題克服、といった診療・教育・研究の視点から成り立つ能力をバランスよく身につけた優秀な人材の育成に努めたいと考えています。

保健学科同窓会の皆様方には、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 自己紹介

上條 優子

(医学部保健学科 成人・老年看護学 講師)

山梨県出身です。富士山を見ながら育ちました。その後、東京、イギリス、アメリカ、青森、東ティモール等を経て松本にやってきました。看護師として大学病院、診療所、個人病院で働き、外資系企業(医薬品・医療機器関連の会社)ではマーケティングや新製品導入に関わり、看護の経験を生かした仕事をしました。そのため、看護師の資格を持っていると様々なことにチャレンジできると実感しています。



現在、信州大学では、医学部保健学科の看護学専攻に所属し、基礎看護学講座で基礎看護学の演習や実習を行いながら、私の専門分野である看護管理学を担当しています。病院および企業に勤務した経験があるため、看護管理学に興味を持ちましたが、看護管理学を学ぶと少し広い視野で看護を眺めることができ、組織や医療の質について目を向けることとなります。実際に、私自身は、医療の質の向上についての研究に興味を持っています。

新しい環境に慣れるのにはもう少し時間が必要ですが、読書や美しい自然を楽しみながら、教育・研究に励みたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## カーティン工科大学短期留学



### カーティン工科大学短期留学プログラムに参加して

看護学専攻3年 亀岡 美紀

短期留学プログラムに参加して貴重な経験をすることができました。今回が私にとって初めての海外だったのですが、ホストファミリー、先生方、一緒に参加した友人の協力によりとても楽しいオーストラリア生活を送ることができました。

大学での授業では、オーストラリアの授業を実際に体験することができました。日本との違いは、学生の発言が多いということです。学生が発言することが多く、積極的に授業に参加していると感じました。看護の講義では、「小児の入院が家族に及ぼす影響」をテーマにした授業があったのですが、授業内容やポイントは日本で行っている授業とほぼ同じでした。看護の授業に関しては、日本もオーストラリアも同じような内容を行っていると感じました。病院見学では、2つの病院の見学をしました。外観は日本の病院と違い、レンガ造りのような建物でしたが、病棟や病室は日本の病院とほとんど一緒でした。ただ、小児科は壁一面に絵が書いてあったり、プレイルームがモダンな造りになっており、工夫が施されていました。

また、ホストファミリーとの生活やアボリジニーについての授業などを通して、オーストラリアの文化にふれることができました。特に、食事の違いをととても感じました。パンやパスタが食事に出てくることが多

く、すべてが大きなサイズでした。また、日本のように手間をかけて料理するのではなく、短時間で簡単に料理すると感じました。ホストマザーが作る食事はおいしく、楽しんで食事をすることができました。

パース市内、ロットネスト島、ピナクルズを訪れるなど観光を通してオーストラリアを満喫することができました。パース市内では、ショッピングや博物館・美術館の見学をし、パースの町並みにふれることができました。ロットネスト島

では、海やビーチなどの美しい自然や島に生息する動物を見ることができました。ピナクルズでは、オーストラリアの雄大な自然を感じることもできました。

オーストラリアで過ごした3週間は、さまざまなことを学び、楽しみ、とても有意義なものでした。この短期留学プログラムに参加してよかったと思います。このプログラムに協力して下さった方々に心から感謝します。ありがとうございました。

### カーティンプログラムに参加して

検査技術科学専攻3年 吉廣 めぐみ

私が今回の短期留学プログラムに参加した理由は、オーストラリアの医療を学んだり、海外で生活することで、自分の視野を広げたいと思ったからです。私にとって初めての海外であったため、全てが今までに体験した事のないものばかりでした。

特にホームステイでの生活や外国の友達が出来た事は私にとって、大変貴重なものとなりました。同時に、もっと英語が話せればと強く思いました。そうすれば、もっと相手のことを理解できるし、伝えたいことも上手く伝えることができるのに、というもどかしさを感じました。

カーティンの学生と一緒にいった実習や講義は、とても興味深いものでした。実習では一人一人に器具が与えられているため、全ての実習を全員が習得できる



のが良いシステムだと思いました。一度やったことのある実習や講義であったため、やり方や試薬の違いなども学べ、より深い理解が

できました。

病院見学や施設訪問では、実際にオーストラリアの医療の現場を見る事ができ、モチベーションが上がりました。日本でも取り入れたら良いと思うシステムもあり、大変勉強になりました。

このプログラムを通して一番感じたことは、積極性が大切で、受け身では何も得られないということです。この様な経験から、身につけたこと、学んだことを今後活かしていきたいと思いました。私達を支えて下さった先生方、同窓会の方々に、深く感謝をしています。ありがとうございました。

## カーティン工科大学研修プログラムをおえて

作業療法学専攻3年 富永 茉紀

オーストラリアに行っていたことが夢であったことのように感じる、あっという間の3週間だった。

“とにかく積極的に話をする”と目標を立てて行ったが、実行するのは簡単ではなかった。聞き取れない会話、言いたいことを表現出来ないもどかしさ、とっさに出てこない単語…、もっと勉強しておくべきだったと後悔した。また、私のホームステイ先では「Why?」と聞かれることが多くあり、英語力の問題だけではなく、明確な理由や自分の意見を持つこと、またそれを表現することの大切さについて考えさせられた。

講義ではオーストラリアの医療や文化等について学ぶことができ、また実習見学や病院見学では、実際の理学療法や作業療法を見学するという貴重な体験をすることができ、たくさんの刺激を受けた。

様々なことを感じ考えさせられた3週間は、今後作業療法士を目指して勉強していく上で大きな影響を与えるものとなった。プログラムを通して学んだことを、これからの自分に活かしていきたいと思う。

最後になりましたが、長期間日本を離れて引率して

下さった先生方を始め、このプログラムに関わった全ての人に感謝したい。本当に有難うございました。

## オーストラリア留学を終えて

理学療法学専攻3年 秦 麻美

オーストラリアでの3週間はあっという間だった。短い期間であったが様々な体験をし、プログラムを通じて学年や専攻、国籍を超えた友を得ることが出来た。

年々低下していった私の英語能力は、自分自身はもちろんホストファミリーをも困らせた。話し掛けられてもなかなか聞き取れず、言いたい事も言葉で表現出来ず、言葉の壁に悩んだ。しかしファミリーはいつでも簡単な言い回しに変えたり、ゆっくりと繰り返したりしてくれた。そして私がやっとの事で理解すると「Good.」と言ってにっこり笑ってくれた。初めの頃はいつ話し掛けられるか、それを聞き取れるかと心配で構えていたものだが、第2週も半ば過ぎると周囲が英語で話す事にも彼らと話すには英語を用いる事にも慣れ、徐々にうちとけていった。

その第2週から医療内容の講義や学生達に交じっての理学療法の授業が始まった。カーティン工科大学の教師の方々によるオーストラリア医療のお話は大変興味深く、広大な土地をもつ国だからこそその問題やライジングドクターの活動は印象的であった。そして理学療法のクラスでは、学生達の分からない点を放置せずに尋ねる、率先して先生の助手を努めるなどの積極的な姿勢に感心し見習おうと思った。またこのクラスでレイチェルという学生を親しくなることが出来た。しかし会話は全て英語で、もっと深く話し合いたいと思う時自分の英語力の低さが悔しかった。

オーストラリアの日本と異なる文化に楽しさを覚えたりショックを受けたりしつつ3週間が過ぎた。この経験は私の思考や意識に大いに影響を与えたと思う。

最後にこのプログラムを、そして私を支えてくれた先生方、友人達、ホストファミリーの皆、本当にありがとうございました！



## 平成19年度活動報告

### ●牛山喜久先生 最終講義



平成20年3月末をもって、検査後術科学専攻の牛山喜久先生が退職されました。医療短大の頃から、約21年間生理学を中心に教えていただきました。カエルの実習が懐かしいです…。

### ●鎌田 實先生 記念講演



大学院医学系研究科保健学専攻設立記念講演会で、諏訪中央病院名誉院長の鎌田 實先生に「命を支えるということ」をテーマでお話を伺いました。何度も涙が溢れてくる様なお話がありました。

### ●池田宇一教授 特別講演



保健学科同窓会総会特別講演で信州大学大学院医学系研究科 池田宇一教授に「動脈硬化と再生医療」をテーマにお話を伺いました。動脈硬化と再生医療についてとてもわかりやすい内容でした。

### ●顕微鏡組織画像投影プロジェクター



本年度は学習環境整備費で「顕微鏡組織画像投影プロジェクター」と「スクリーン」を購入しました。顕微鏡から見える組織画像を映し出すための専用プロジェクターです。ちなみに、この写真の左上にわずかにプロジェクターが写っています（天井に固定）。そして、このプロジェクターを使って映し出された画像が正面のスクリーンに映っています。

# 総会記録

## 平成20年度信州大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 平成20年6月28日(土) 15時15分～16時15分

場 所 旭総合研究棟9階講義室

出席者 川上由行同窓会長・市川元基同窓会名誉会長・山崎一・奥村伸生・柳澤節子・三好圭・小林利江・伊藤喜世子・寺澤文子・小穴こず枝・亀子文子・村山忠勇・細田かず子・羽山正義・川崎健治・加藤亮介・小林正宜・柴崎詠美・坂口しげ子・丸山順子・武市尚也・平千明・小木曾菜穂（23名）

1. 保健学科同窓会長挨拶
2. 保健学科同窓会名誉会長(学科長)挨拶
3. 議長選出  
川崎健治氏を選出した。
4. 平成19年度事業報告及び決算報告について  
資料1-1により奥村伸生幹事から事業報告があり、続いて資料1-2により柳澤節子幹事から決算報告があり承認された。
5. 平成19年度委任経理金及び記念事業等特別積立繰越金について  
資料3により柳澤節子幹事から報告があり承認された。
6. 平成19年度会計監査報告  
資料2より小林利江監事から平成20年6月3日(火)に青木朗監事と通帳・帳簿・証拠書類を確認したところ適正に処理されていた旨の報告があった。
7. 平成20年度事業計画及び予算(案)について  
資料5-1により奥村伸生幹事から事業計画の説明があり、続いて資料5-2により柳澤節子幹事から予算(案)の説明があり承認された。
8. 平成20年度会費納入状況報告書  
資料4により柳澤節子幹事から説明があり、会費納入に対して更なる協力要請があった。
9. その他  
なし。

# 平成19年度事業報告

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
  - 1) 学生図書購入
  - 2) 学術国際交流推進(オーストラリア, カーティン工科大学短期留学プログラム)  
平成19年8月11日(土)～9月1日(土)  
学生15名参加, 教員3名。
  - 3) 特別講演の開催
    - ①平成19年度保健学科同窓会総会特別講演  
「動脈硬化と再生医療」 池田宇一教授  
(信州大学大学院医学系研究科 臓器発生制御医学講座 循環病態学分野)  
平成19年6月16日(土) 15:00～16:00  
旭会館3階大会議室
    - ②大学院医学系研究科保健学専攻設立記念講演会  
「命を支えるということ」 鎌田 實氏  
(諏訪中央病院 名誉院長)  
平成19年10月14日(日) 15:00～16:30  
経済学部第2講義室
  - 4) 大学院立ち上げ活動補助
  - 5) 実習指導者連絡協議会開催補助
  - 6) 卒業祝賀会補助
  - 7) 卒業記念品の贈呈  
・卒業式集合写真(卒業生154名)
  - 8) 就職活動支援  
・就職支援室整備(就職支援用PCヘッドホン)
  - 9) 入試広報活動補助  
・キャンパス見学会補助  
・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
  - 10) 入試広報活動補助  
・新入生合宿研修補助  
・松本ぼんぼん参加補助  
・検査技術科学専攻球技大会補助
  - 11) 保健学科キャンパス環境整備  
・検査技術科学専攻実験設備購入
  - 12) 記念事業開催準備(積み立て)
2. 保健学科同窓会分科会支援
  - 1) 看護学専攻: アルプス会・桐の木会
  - 2) 検査技術科学専攻: 臨嶺会
  - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻: 州嶺会
3. 保健学科同窓会の運営について
  - 1) 同窓会ホームページの運営
  - 2) 同窓会だより第5号の発行(10月)
  - 3) 同窓会総会の開催
    - ①平成19年度総会の開催  
平成19年6月16日(土) 15:00～16:00  
信州大学旭会館3階大会議室
    - ②役員会の開催  
平成20年6月17日(火) 18:30～21:00  
信州大学医学部保健学科第一会議室
    - ③幹事会の開催  
第1回 平成20年5月15日(木)
  - 4) 同窓会事務局の運営
  - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
    - ①第5回役員会開催  
平成19年11月17日(土)  
信州大学創立60周年記念事業開催協力  
(平成21年2009年6月1日前後)について
    - ②第1回幹事会 平成20年1月8日(火) およびその後のメール審議  
・信州大学同窓会連合会『同窓会連合会賞』表彰について平成20年より贈呈
    - ③信州大学同窓会連合会『同窓会連合会賞』の表彰  
平成20年4月6日(日曜日) 大学入学式後  
信州大学交響楽団、松本キャンパスISO学生委員会、カスタム ドット オーアールジー フィーチャリング ギチョー、以上3団体が受賞。
  - 6) 信州医学振興会支援

# 平成19年度医学部保健学科同窓会決算書

## 収入

平成20年5月15日現在  
(単位:円)

事 項	19年度決算額	19年度予算額	増減(一は減)
前年度繰越	408,405	408,405	0
会 費(在校生)	1,040,000	1,040,000	0
会 費(新生・3年次編入生含む)	8,215,000	8,215,000	0
利 息	8,971	0	8,971
合 計	9,672,376	9,663,405	8,971

## 支出

事 項	19年度決算額	19年度予算額	増減(一は減)
1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助			
・図書購入費	500,000	500,000	0
・学術国際交流推進経費	700,000	700,000	0
・特別講演会経費	1,239	100,000	98,761
・大学院立上げ活動経費	0	0	0
・実習指導者連絡協議会経費	82,824	100,000	17,176
・卒業祝賀会経費	300,000	300,000	0
・卒業生記念品代	170,800	140,000	-30,800
・就職支援経費	5,229	100,000	94,771
・入試広報活動経費	215,513	200,000	-15,513
・学生課外活動経費	93,554	100,000	6,446
・学習環境整備	1,293,075	1,200,000	-93,075
・記念事業等特別積立金	800,000	800,000	0
小 計	4,162,234	4,240,000	77,766
2. 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)運営費補助			
・看護学関係同窓会	1,520,000	1,520,000	0
・検査技術科学関係同窓会	880,000	880,000	0
・理学療法学関係同窓会	300,000	300,000	0
・作業療法学関係同窓会	440,000	440,000	0
・上記振込み手数料	1,165	1,350	185
小 計	3,141,165	3,141,350	185
3. 保健学科同窓会運営費			
・同窓会ホームページ及び会報編集会議等	20,160	20,000	-160
・同窓会だより	358,050	400,000	41,950
・同窓会総会等経費	82,293	300,000	217,707
・事務処理等人件費	600,000	584,000	-16,000
・通信費	20,880	30,000	9,120
・消耗品	147,525	150,000	2,475
・電気・電話使用料	23,465	35,000	11,535
・信州大学同窓会連合会会費	70,315	70,315	0
・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
小 計	1,372,688	1,639,315	266,627
4. 予備費	186,550	642,740	456,190
合 計	8,862,637	9,663,405	800,768

収 入	9,672,376
支 出	8,862,637
差引残額(翌年度繰越額)	809,739

## 平成19年度委任経理金・記念事業等特別積立金繰越額

(単位:円)

1. 委任経理金					2. 記念事業等特別積立金				
事 項	18年度繰越額	19年度			事 項	18年度繰越額	19年度		
		収 入	支 出	残 額			収 入	支 出	残 額
図書購入費	200,118	460,000	500,000	160,118	記念事業等特別積立金	2,401,135			2,401,135
学術国際交流推進経費	2,227,617	644,000	0	2,871,617	平成19年度収入額		800,000		3,201,135
大学院立上げ活動経費	770,770	0	0	770,770	学術国際交流推進補助			250,000	2,951,135
特別講演会経費	700,705	0	0	700,705	鎌田先生特別講演謝礼			200,000	2,751,135
					鎌田先生特別講演に伴う懇親会			150,000	2,601,135
					利 息		4,167		2,605,302
計		1,104,000	500,000	4,503,210	計	2,401,135	804,167	600,000	2,605,302
19年度繰越額					19年度繰越額				
					2,605,302				

# 平成20年度事業計画(案)

1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営補助
  - 1) 学生図書購入
  - 2) 学術国際交流推進(オーストラリア, カーティン工科大学短期留学プログラム)
  - 3) 特別講演の開催
    - ①平成20年度保健学科同窓会総会特別講演  
『障害者をめぐる「常識」の嘘』  
星加良司氏 東京大学先端科学技術研究センター  
平成20年6月28日(土) 13:00~15:00 旭総合研究棟 9階講義室  
他2回
  - 4) 大学院運営補助
  - 5) 実習指導者連絡協議会開催補助
  - 6) 卒業祝賀会補助
  - 7) 卒業記念品の贈呈
    - ・卒業式集合写真
  - 8) 就職活動支援
  - 9) 入試広報活動補助
    - ・キャンパス見学会補助
    - ・各特別選抜試験および一般選抜試験補助
  - 10) 学生課外活動支援
    - ・新入生合宿研修補助
    - ・松本ぼんぼん参加補助などを予定
  - 11) 保健学科キャンパス環境整備
  - 12) 記念事業開催準備(積み立て)
2. 保健学科同窓会分科会支援
  - 1) 看護学専攻:アルプス会・桐の木会
  - 2) 検査技術科学専攻:臨嶺会
  - 3) 理学療法学専攻・作業療法学専攻:州嶺会
3. 保健学科同窓会の運営について
  - 1) 同窓会ホームページの運営
  - 2) 同窓会だより第6号の発行
  - 3) 同窓会総会の開催
    - ①平成20年度総会の開催  
平成20年6月28日(土) 15:15~16:15  
旭総合研究棟 9階講義室
    - ②役員会の開催  
年1回5~6月
    - ③幹事会の開催  
年3回
  - 4) 同窓会事務局の運営
  - 5) 信州大学同窓会連合会との連携
  - 6) 信州医学振興会支援

# 平成20年度医学部保健学科同窓会予算（案）

## 収入

平成20年5月15日現在  
(単位:円)

事 項	20年度予算額	19年度決算額	増減(－は減)
前年度繰越	809,739	408,405	401,334
会 費(在校生)	1,015,000	1,040,000	-25,000
会 費(新入生・3年次編入生・大学院含む)	7,865,000	8,215,000	-350,000
利 息	0	8,971	-8,971
合 計	9,689,739	9,672,376	17,363

## 支出

事 項	20年度予算額	19年度決算額	増減(－は減)
1. 在校生の教育支援及び保健学科の運営費補助			
・図書購入費	500,000	500,000	0
・学術国際交流推進経費	700,000	700,000	0
・特別講演会経費	50,000	1,239	48,761
・大学院立上げ活動経費	0	0	0
・実習指導者連絡協議会経費	100,000	82,824	17,176
・卒業祝賀会経費	300,000	300,000	0
・卒業生記念品代	170,000	170,800	-800
・就職支援経費	50,000	5,229	44,771
・入試広報活動経費	200,000	215,513	-15,513
・学生課外活動経費	100,000	93,554	6,446
・学習環境整備	1,200,000	1,293,075	-93,075
・記念事業等特別積立金	800,000	800,000	0
小 計	4,170,000	4,162,234	7,766
2. 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)運営費補助			
・看護学関係同窓会	1,500,000	1,520,000	-20,000
・検査技術科学関係同窓会	780,000	880,000	-100,000
・理学療法学関係同窓会	380,000	300,000	80,000
・作業療法学関係同窓会	320,000	440,000	-120,000
・理学・作業療法学関係同窓会	20,000	0	20,000
・上記振込み手数料	1,165	1,165	0
小 計	3,001,165	3,141,165	-140,000
3. 保健学科同窓会運営費			
・同窓会ホームページ及び会報編集会議等	20,000	20,160	-160
・同窓会だより	400,000	358,050	41,950
・同窓会総会等経費	300,000	82,293	217,707
・事務処理等人件費	600,000	600,000	0
・通信費	30,000	20,880	9,120
・消耗品	30,000	147,525	-117,525
・電気・電話使用料	30,000	23,465	6,535
・信州大学同窓会連合会会費	70,315	70,315	0
・信州医学振興会会費	50,000	50,000	0
小 計	1,530,315	1,372,688	157,627
4. 予備費	988,259	186,550	801,709
合 計	9,689,739	8,862,637	827,102

# 同窓会役員

名誉会長：市川元基（医学部保健学科）	理事：検査技術科学専攻4名	理事：大学院1名
会長：川上由行（医学部保健学科）	小林玉宜（検査技術科学専攻学生）	芳賀亜紀子（医学部保健学科）
副会長：山崎一（南箕輪村役場）	前田（輪湖）由香理 （松本市医師会医療センター）	幹事：奥村伸生（医学部保健学科）
理事：看護学専攻8名	川崎健治（医学部附属病院）	山崎章恵（医学部保健学科）
森仁史（看護学専攻学生）	亀子文子（医学部保健学科）	柳澤節子（医学部保健学科）
西田緑（看護学専攻学生）	理学療法学専攻2名	三好圭（医学部保健学科）
松本あつ子（医学部附属病院）	高尾卓（理学療法学専攻学生）	監事：青木朗（医学部保健学科）
三井貞世（医学部附属病院）	森本正道（竹重病院）	小林利江（医学部附属病院）
伊藤喜世子（医学部附属病院）	作業療法学専攻2名	事務：清水敏勝
細田かず子（医学部附属病院）	吉村貴記（作業療法学専攻学生）	
丸山順子（松本短期大学）	井戸芳和（医学部附属病院）	
上條陽子（医学部附属病院）		

## 信州大学医学部保健学科同窓会会則

### 信州大学医学部保健学科同窓会会則

#### 第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科内に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- 一 会員の親睦及び研修に必要な事項
  - 二 母校の発展に関する事項
  - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

#### 第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
    - イ 信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生
    - ロ 信州大学医療技術短期大学の在生及び卒業生
    - ハ 信州大学医学部保健学科（以下「本学科」という）の在生及び卒業生
  - 二 信州大学医学部保健学科大学院修士課程（「以下本学科大学院修士課程」という）の在生及び修了生
- 二 特別会員
    - イ 本学科教員
    - ロ 本学科元教員
    - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者

- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費として6万円を本学科入学時に納入するものとする。また、3年次編入生については編入時に4万円納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の抛出金は返還しないものとする。

#### 第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
  - 二 副会長 1名
  - 三 理事 17名（看護8名；検査4名；理学2名；作業2名；大学院生1名）
  - 四 幹事 若干名
  - 五 監事 2名
- 第11条 役員は、次の職務を行なう。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
  - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
  - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
  - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
  - 五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
  - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
  - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
  - 四 幹事は、会長が委嘱する。
  - 五 監事は、総会において正会員の中から選出する。

- 第13条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。  
 2 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。  
 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

#### 第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。  
 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。  
 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

#### 第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。  
 一 事業及び決算報告  
 二 事業計画及び予算  
 三 会則の制定及び改廃  
 四 役員の選出  
 五 顧問の推挙  
 六 その他の必要事項  
 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。  
 第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。  
 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。

- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。  
 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。  
 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。  
 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。  
 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。  
 第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。  
 第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。  
 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。  
 第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

#### 第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。  
 第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

#### 附 則

- この会則は、平成15年4月1日から施行する。  
 この会則は、平成16年4月1日から施行する。  
 この会則は、平成19年4月1日から施行する。

### 信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生及び修士大学院生については、編入時もしくは大学院入学時に4万円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
- 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
  - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。 3万円
  - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。 2万円
  - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。 1万円
 また、3年次編入生及び修士大学院生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。  
 ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
  - 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関すること。 1万5千円
  - 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に関すること。 2万円
  - 医学部保健学科同窓会としての運営に関すること。 5千円
 保健学科同窓会会員が修士課程に入学した場合は、(1)在学生の教育支援及び医学部保健学科の運営に関して1万5千円を納入すること。
- 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
- 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。
- 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

#### 附 則

- この細則は、平成15年4月1日から施行する。  
 この細則は、平成16年4月1日から施行する。  
 この細則は、平成19年4月1日から施行する。

# 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻の紹介

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻は平成19年4月に博士前期（修士）課程「Master's Program in Health Sciences, Graduate School of Medicine, Shinshu University」が開設され院生を受け入れてきました。【表1】に、博士前期（修士）課程の分野／領域の概要についてお示しします。

博士前期（修士）課程は、定員14名で、①看護学分野、②検査技術科学分野、③理学・作業療法学分野の3分野、7領域、17学域で組織されています（上表参照）。現在、41名の修士課程大学院生が学んでおり、平成21年4月には、一期生が修了され、「看護学修士」や「保健学修士」の学位を授与されることになっております。

この度、平成21年度より信州大学大学院医学系研究科保健学専攻に、博士後期（博士）課程「Doctor's Program in Health Sciences, Graduate School of Medicine, Shinshu University」が新たに設置されることになりました。この博士後期課程は定員4名で来年度より講義が始まります。標準修業年限は3年で、修了者には「保健学博士」の学位が授与されます。【図1】に、博士後期（博士）課程の分野／領域の概要についてお示しします。

リハビリテーションおよび検査技術科学分野における大学院博士後期課程の設置は長野県内では初となり、看護学分野においても長野県看護大学に続くもので、特に長野県内の社会人の学位取得希望者にはより通いやすくなります。

## ■教育・研究上の理念

保健学は、人間を精神的、身体的、社会的な側面から、全人的な存在としてとらえ、人々の健康、疾病及び障害について探求する学問である。このため、医療に直接関係する学問だけでなく、社会学、倫理学などの学問との結びつきを通して、個人並びに集団の健康を学際的に探求する科学と考えられている。信州大学大学院医学系研究科保健学専攻（博士後期課程）では、この学際的な保健学の領域における教育・研究を通して、その成果を社会に還元し、人々の健康支援を行い、積極的に疾病の予防を推進することにより、人類の健康と福祉に貢献することを基本理念とする。

## ■目的

博士前期課程（修士課程）における教育・研究を通して養われた知識や技術による高度の専門能力を更に高め、創造的な研究能力を有する教育・研究者及び高度専門保健医療職者を養成することを目的とする。

【表1】博士前期（修士）課程の分野／領域の概要

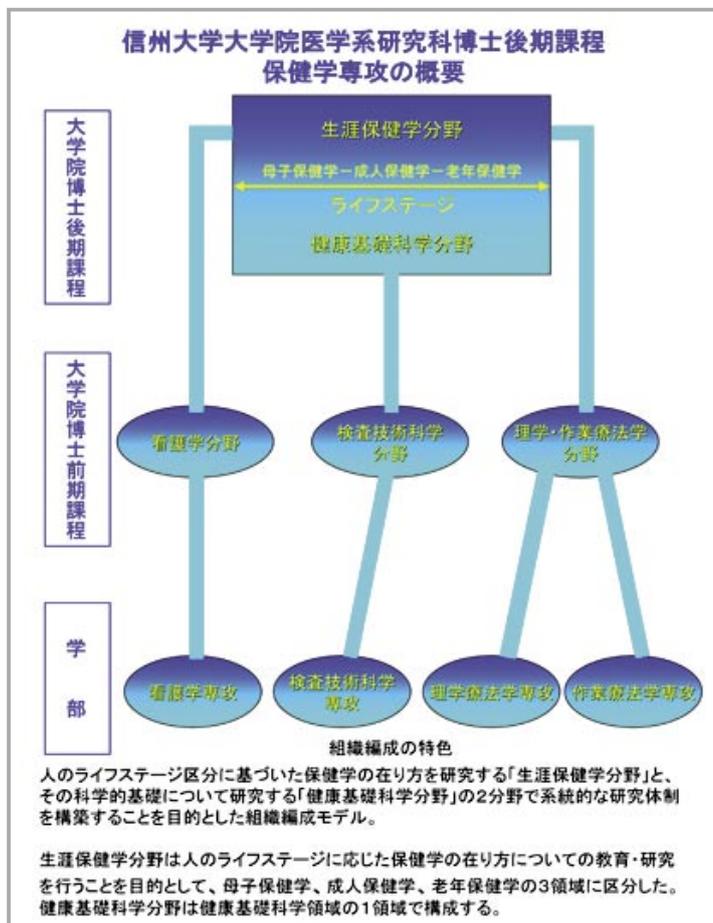
分 野	領 域	学 域	
看護学	看護教育学 母子看護学 地域・在宅・国際看護学	・看護教育学 ・リプロダクティブ・ヘルス看護学 ・子ども・女性・家族支援(CNSコース)	・地域・在宅看護学 ・在宅看護学(CNSコース) ・国際看護学
検査技術科学	病因・病態検査学	・病態血液検査学 ・生体分子情報検査学 ・感染制御検査学	・組織細胞病態検査学 ・神経免疫分子科学
理学・作業療法学	理学療法学 機能障害学 作業療法学	・運動器・スポーツ理学療法学 ・障害予防理学療法学 ・運動機能障害学	・高次機能障害学 ・生活支援作業療法学 ・精神作業療法学

## ■教育課程の特色及び養成する人材

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻（博士後期課程）では、長野県に唯一の総合大学として、地域社会及び医療の現場における保健学に対するより高度で多様な要請に対応するため、ライフステージに応じた健康支援や積極的な疾病予防を推進し、保健・医療・福祉活動の開発・改良を学際的研究で目指す「生涯保健学分野」と病態解明に関する研究で支える「健康基礎科学分野」の2分野で構成する博士後期課程を設置する。

生涯保健学分野は、母子保健学領域、成人保健学領域及び老年保健学領域の3領域で組織し、人間のライフステージにおける心身の健康問題や健康の変化に伴う生活上の問題を探求し、それらの予防・回復に寄与するとともに、人生の質の向上を図ることを目的とする。また、健康基礎科学分野は、健康基礎科学領域の1領域で組織し、健康の障害となる疾患や加齢に伴う生体機能の変化を探求し、その病態解明を目的とする（資料）。これらの2つの分野における各領域は相補的に連携・協働し、更に地域保健機関・病院・診療所・福祉施設等との連携を行い、保健学の領域において自立して研究・開発する能力を持ち、臨床的エビデンスの構築を行うことができる教育・研究者や高度専門保健医療職者の養成を目指す。

【図1】博士後期（博士）課程の分野／領域の概要



なお、詳細については、「医学部事務部大学院係  
TEL：0263-37-3376」へお問い合わせ下さい。

## 編・集・後・記

数ヶ月前からのガソリン高騰、構内の駐車場不足、さらに減量の3つの理由で、最近自転車通勤を始めました。まずは、「格好から」と言うことで、クロスバイクを購入しました。最近の自転車ブームで納車まで6ヶ月かかりました。自転車通勤は、想像していたよりも快適で通勤時間帯は渋滞に引っかからないため自動車よりも短時間で到着します。また、自動車よりも小回りがきく分、寄り道もふえ、松本城の紅葉を眺めたり、ウィンドウショッピングをしたり、と以前よりも通勤時間を楽しんでいます。ただ、

体重は全然減らず…。

話は変わって、19年度から大学院医学系研究科の修士課程（保健学専攻）がはじまり、この春には最初の修了生が誕生します。修了生は皆さん、各専攻（看護学専攻：アルプス会・桐の木会、検査技術科学専攻：臨嶺会、理学療法・作業療法学専攻：州嶺会）の同窓会会員となりますので、みなさんよろしくお願いたします。

保健学科 MK.